

自然体験活動指導者（リーダー）

講習会講師ハンドブック

平成26年3月

全国体験活動指導者認定委員会

も く じ

| | |
|------------------|----|
| 自然体験活動指導者（リーダー） | 2 |
| 1. 青少年教育における体験活動 | 3 |
| 2. 自然体験活動の特質 | 5 |
| 3. 対象者理解 | 7 |
| 4. 自然体験活動の指導 | 9 |
| 5. 自然体験活動の技術 | 11 |
| 6. 自然体験活動の安全管理 | 13 |
| ガイダンスと試験 | 15 |

自然体験活動指導者（リーダー）

「目的」

自然体験活動指導者（リーダー）養成講習会は、指導者像に掲げる指導者を養成し、青少年をはじめとする多くの人々の自然体験活動を推進するために実施する。

「指導者像」

自然体験活動上級指導者（インストラクター）や自然体験活動総括指導者（コーディネーター）のもと、活動の支援や指導にあたる。

- ①プログラムのねらいを理解し、参加者及び担当するグループのメンバーの支援を行う。
- ②プログラムの実施の際、基礎的な指導にあたる。
- ③参加者及び担当するグループのメンバーの安全に留意する。

「主な目標」

1. 青少年教育における体験活動の意義を理解する。
2. 自然体験活動の意義を理解する。
3. 対象者の特徴を理解する。
4. 自然体験活動指導者としての基本的な心構えを理解する。
5. 自然体験活動の体験と基本的な技術を理解する。
6. 自然体験活動における基本的な安全管理と応急処置を理解する。
7. 自然体験活動指導者認定制度の仕組みと自然体験活動指導者（リーダー）の役割を理解する。

「科目と時間数」

| | |
|------------------|--------|
| 1. 青少年教育における体験活動 | 1. 5時間 |
| 2. 自然体験活動の特質 | 3. 0時間 |
| 3. 対象者理解 | 1. 5時間 |
| 4. 自然体験活動の指導 | 1. 5時間 |
| 5. 自然体験活動の技術 | 6. 0時間 |
| 6. 自然体験活動の安全管理 | 3. 0時間 |
| ガイダンスと試験 | 1. 5時間 |

計 18 時間

青少年教育における体験活動

【90分】90分×1コマ

「目標」

青少年教育における体験活動の意義を理解する。

- ①青少年教育の目的・目標を理解する。
- ②青少年教育の内容と青少年の問題や青少年教育の現代的な課題を理解する。
- ③青少年教育の方法と体験活動の「定義と分類」「意義と効果」について理解する。

「主な講習内容」

青少年教育における体験活動の意義を理解する。

- ①青少年教育の目的・目標を理解する。
 - ・教育基本法は、「教育の目的」（第一条）、「教育の目標」（第二条）を規定していること。
 - ・社会教育法で定義されている「社会教育」から、青少年教育の定義が類推できること。
- ②青少年教育の内容と青少年の問題や青少年教育の現代的な課題を理解する。
 - ・青少年教育の内容は、実施者が青少年の問題や現代的な課題に基づいて、個人のニーズや社会で生活する上で必要なことについて設定すること。
 - ・青少年の問題については、各種資料をもとに、直接体験の不足、コミュニケーション能力の低下、ネット中毒の問題等を提示すること。
 - ・青少年教育の現代的な課題については、各種資料をもとに情報教育や環境教育などを提示すること。
- ③青少年教育の方法と体験活動の「定義と分類」「意義と効果」について理解する。
 - ・体験活動の「定義」と「分類」

「次代を担う自立した青少年の育成に向けて～青少年の意欲を高め、心と体の相伴った成長を促す方策について～」(答申)では、「体験活動」の「定義」を、「体験を通じて何らかの学習が行われることを目的として、体験する者に対して意図的・計画的に提供される体験を指して用いている」としていること。

また、体験活動は「生活・文化体験活動」「自然体験活動」「社会体験活動」等に「分類」できること。
 - ・体験活動の「意義」と「効果」

青少年教育の方法の一つとして、「体験活動」があり、その体験活動の様々な「意義」と「効果」に関すること。
 - ・青少年教育の特性から、参加・参画型、双方向型の教育方法が効果的であること。また、そうした教育方法における指導者には特有の役割があること。
 - ・青少年教育の実施者として、青少年教育施設、青少年団体、民間教育事業者等があること。
 - ・青少年教育施設や民間教育事業者等では、「学校の集団宿泊活動」も行われていること。

「留意点」

- (1) 青少年教育に関する基礎的な事項を、「教育の目的・目標」「対象」「内容」「方法」の観点から理解を図る。
- (2) 講義内容を勘案する際には、「教育基本法」や内閣府の「子ども・若者白書」・「青少年育成施策大綱」・「子ども・若者ビジョン」、文部科学省の「文部科学白書」、国及び都道府県や国立青少年教育振興機構等が出している青少年教育に係る調査報告等を活用する。
- (3) 講義に際しては、青少年教育との関わりが多くない者を想定し、基礎的な事項を分かり易く伝えることに留意する。また、資料を活用したり、グループや全体討議を取り入れたりするなど、学習意欲を高めるよう工夫する。

「参考資料」

- ・ 青少年白書（内閣府 HP） <http://www8.cao.go.jp/youth/wakugumi.html>
- ・ 文部科学白書（文部科学省 HP）
- ・ 青少年育成施策大綱、子ども・若者ビジョン <http://www8.cao.go.jp/youth/wakugumi.html>
- ・ 調査研究資料（国立青少年教育振興機構） ※例示
 - 「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」（平成 21 年度・22 年度）
 - 「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」（平成 22 年度）
- ・ 「次代を担う自立した青少年の育成に向けて～青少年の意欲を高め、心と体の相伴った成長を促す方策について～」（答申） 平成 19 年 1 月 30 日 中央教育審議会
- ・ 「今後の青少年の体験活動の推進について」（答申）平成 25 年 1 月 21 日 中央教育審議会

自然体験活動の特質 【180分】 90分×2コマ

「目標」

- (1) 地域の自然体験活動の特色を理解する。
- (2) 自然体験活動の意義と課題を理解する。
 - ①自然体験活動の意義を理解する。
 - ②自然体験活動の課題を理解する。

「主な講習内容」

- (1) 地域の自然体験活動の特色を理解する。
 - ・自然体験活動を通じて（講習会場周辺の）様々な自然環境を知ること。
 - ・（講習会場周辺の）気候、地形、動植物などが様々に影響しあって自然環境を構成していることに気づくこと。
- (2) 自然体験活動の意義と課題を理解する。
 - ①自然体験活動の意義を理解する。
 - ・自然体験活動は、自然のほか、自然と係る人間の生活や他者への関心を高めること。
 - ・自然体験活動は、自然を大切にし、守る気持ちを育てること。
 - ・自然体験活動は、自己肯定感や自尊感情を高め、他者を尊重する気持ちを育てること。
 - ②自然体験活動の課題を理解する。
 - ・参加者が抱えている課題を洗い出し、共通点と相違点を探ること。

「留意点」

- (1) 自然体験活動のどのような点が青少年等の成長に良い影響を与えられるかを、活動の実際からイメージできるよう指導する。
- (2) できるだけ平易な言葉を使用するように配慮し、体験が少ない参加者でも理解しやすいような表現を心がける。
- (3) 可能なかぎり参加型にする。
- (4) 身の回りの様々な自然に目を向けられる視点を持つよう指導する。

「参考資料」

- ・ 体験の風をおこそうー体験活動の企画と展開 田中壮一郎編（悠光堂）
- ・ 野外教育の理論と実際 星野敏男、金子和正編（杏林書院）
- ・ 野外教育入門ーやさしくわかる自然体験活動 川嶋直、佐藤初雄、平野吉直、星野敏男編著（小学館）
- ・ センス・オブ・ワンダー レイチェルカーソン著 上遠恵子訳（新潮社）

対象者理解 【90分】 90分×1コマ

「目標」

対象者の特徴を理解する。

- ①対象者理解の必要性と方法を理解する。
- ②各年齢期の特徴を理解する。
- ③対象者への配慮事項を理解する。

「主な講習内容」

対象者の特徴を理解する。

- ①対象者理解の必要性と方法を理解する。
 - ・対象者を理解するためには、一般的な理解と個別的な理解があること。
 - ・対象者を理解することは、指導者として信頼を得られること。
 - ・対象者を理解することは、自然体験活動のプログラムを安心安全に展開できることにつながる。
 - ・文書資料（参加申込書や健康調査票など）から事前に、活動経歴や地域性、身体的な情報を得ておく必要があること。
 - ・指導者は対象者の行動を観察し、情報を得ること。
 - ・指導者は対象者の話を傾聴すること。
- ②各年齢期の特徴を理解する。
 - ・幼児期、少年期、青年期、成人期、老年期があり、それに応じた心身の特徴と学習方法があること。
 - ・各年齢期の特徴を理解することは、活動を安全に実施できることにつながる。
- ③対象者への配慮事項を理解する。
 - ・対象者との良好な関係性を築くこと。
 - ・多様な状況の対象者がいること。
 - ・性別、年齢、社会的属性などによって配慮事項が違うこと。
 - ・保護者同伴、青少年参加、家庭状況など対象者状況に応じた配慮事項があること。
 - ・身体的な状況に応じて指導すること。
 - ・対象者情報等の守秘義務を守ること。

「留意点」

- (1) 対象者とは、自然体験活動事業等に参加する対象者であること。
- (2) 発達段階にふれること。
- (3) 必要な知識は伝えながらもできるだけ参加型にするよう心がけること。

「参考資料」

- ・学校で自然体験をすすめるために-自然体験活動指導者養成講習会テキスト 国立青少年教育振興機構
- ・キャンプ指導者入門 公益社団法人日本キャンプ協会
- ・手にとるように発達心理学がわかる本 小野寺敦子著 (かんき出版)

自然体験活動の指導 【90分】 90分×1コマ

「目標」

自然体験活動指導者としての基本的な心構えを理解する。

- ①基本的な心構えを理解する。
- ②倫理観について理解する。

「主な講習内容」

自然体験活動指導者としての基本的な心構えを理解する。

- ①基本的な心構えを理解する。
 - ・活動に適した服装や姿勢に気を配ること。
 - ・言葉づかい（わかりやすく、はっきり、元気よく、声の強弱、スピード、声の大きさ）に注意すること。
 - ・物事への誠実な対応、謙虚な態度、明朗快活、健康管理に努めること。
 - ・動作等参加者への心遣い、気遣い、目配りに留意すること。（顔の表情、しぐさ等）
 - ・指導者の立ち位置に注意を払うこと。（集まり方、太陽や風のとの関係、参加者との距離、安全等）
 - ・参加者とのコミュニケーションを上手に図ること。（言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション）
 - ・スタッフ間のチームワークづくりやフォローシップ意識を高めること。
 - ・指導者として、継続的な自己研修が必要であること。
 - ・説明や指示を行う際には、幼児や少年、青年など年代に応じて参加者の理解度が異なることを知り、適切な伝達方法で行うこと。例）声の大きさ、フリップの利用、実演
- ②倫理観について理解する。
 - ・参加者一人一人を尊重すること。（人権）
 - ・セクシャルハラスメント等を考慮し、指導者と成人や児童や少年少女とのスキンシップが過度にならないこと。
 - ・参加者の個人情報について配慮すること。（個人調査書のデータ、写真等）
 - ・道徳の問題に対応すること。
 - ・男女共同参画の視点について考慮すること。
 - ・パワーハラスメントの問題について考慮すること。

「留意点」

- (1) ここでは、講義中心となるが、できるだけ具体例を使い説明すること。
- (2) 参加者とのコミュニケーションの持ち方や関わり方について、自然体験活動指導者としての基本的な心構えを具体的に理解させること。
- (3) 本講義を通じて、参加者自身が自己の特徴に気付き注意点や改善点を自覚できること。
- (4) 指導方法には、多岐にわたる要素があることや自己研修で取り組むべき項目を認識できること。

「参考資料」

- ・ 野外教育の理論と実践 自然体験活動研究会編 (杏林書院)
- ・ キャンプ指導の安全と健康管理 野間口英敏著 (お茶の水書房)
- ・ キャンプ指導のQ&A 野間口英敏著 (遊戯社)
- ・ キャンプカウンセリング入門 斉藤仲次著 (明治図書)
- ・ リーダーのゲーム指導法 宇田川光雄著 (遊戯社)
- ・ やさしいレクリエーションゲーム 日本レクリエーション協会監修 (成美堂出版)
- ・ もっと！子どもが地球を愛するために 山本幹彦監修 (人文書院)
- ・ アドベンチャーグループカウンセリングの実践 PAJ監修 (みくに出版)

自然体験活動の技術 【360分】 90分×4コマ

「目標」

- (1) 様々な自然体験活動のプログラムを体験する。(2コマ)
- (2) 様々な自然体験活動にはそれぞれ必要な基本的な技術や適切な活動場所があることを理解する。
- (3) 自然体験活動のプログラムの流れや構成を理解する。

「主な講習内容」

- (1) 様々な自然体験活動のプログラムを体験する。(1～2つのプログラム)
 - ・自然体験活動をじっくり体験することを通し、プログラムのねらいや効果や感動を直接経験することが重要であると理解すること。
例) アイスブレーキング 等
 - ・活動場所保全のために、自然への配慮が必要なことを理解すること。
例) 登山道、木道、トイレ 等
- (2) 様々な自然体験活動にはそれぞれ必要な基本的な技術や適切な活動場所があることを理解する。
 - ・プログラムの体験を通じて、自然体験活動の基本的な技術を理解すること。
例) 野外炊事 (火起こし、薪割り、炊事、刃物等)
オリエンテーリング (コンパスワーク、地図読み等)
登山・ハイキング (地図読み、歩き方、休憩の取り方、ロープワーク等)
沢登り (服装、歩き方、渡渉方法、ロープワーク等)
クラフト (ナイフ、のこぎり等の道具の使い方) 等
 - ・自然体験活動の活動場所は、海・山・高原・河川・湖水・施設など多種多様であること。
 - ・自然体験活動のプログラムには必要な道具があることを理解すること。
例) ロープや細引きなどの綱類、ナイフや鉋などの刃物類、火気類
道具類の管理・保管・メンテナンス
道具を取り扱うリスク
- (3) 自然体験活動のプログラムの流れや構成を理解する。
 - ・自然体験活動のプログラムには、それぞれ「ねらい」があること。
 - ・自然体験活動のプログラムは、「つかみ (導入)」、「本活動 (展開)」、「まとめ (終結)」で構成されていること。
 - ・自然体験活動のプログラムは、魅力的で楽しく感動を得る構成で考えること。
 - ・自然体験活動は、参加者の状況や活動場所の状態に応じて、流れが作られていること。

- ・安全確保に留意し、天候や参加者の状況変化によって、指導の流れやプログラムの構成を変更することがあること。

「留意点」

- (1) 自然体験活動のねらいや技術を理解するために、十分に時間をかけ実技の体験をすること。
- (2) 自然体験活動を体験する場合、プログラムのエッセンスとして一部体験することも可。
例) 野外炊事プログラムの中の「火起こし」だけを取り上げるなど。
- (3) 道具、ロープ、刃物、火などの道具を使う場合には、十分に危険防止の措置をとること。
- (4) 料理などで山野草、きのこなどを用いる場合には、毒性があるもの、保護されているもの、国立公園内のものは採取しない、などの観点を十分に持つこと。

「参考資料」

- ・ボーイスカウトフィールドブック 財団法人ボーイスカウト日本連盟 (朝日ソノラマ)
- ・キャンプ指導者入門 社団法人日本キャンプ協会
- ・ロープワークの基本 善養寺ススム著 (エイ出版社)
- ・山岳地図の読み方・使い方 村越真・宮内佐季子著 (エイ出版社)
- ・カヌー&カヤック入門 辰野勇著 (山と溪谷社)
- ・ガイドマニュアル「山岳ガイド編」 社団法人日本山岳ガイド協会
- ・体験・遊びナビゲーター 国立青少年教育振興機構 (悠光堂)
- ・体験活動の指導技術 国立中央青少年交流の家
http://fujinosato.niye.go.jp/pdf/activity/actPlan_02.pdf
- ・身近な自然から気づくきっかけづくりプログラム集 公益社団法人日本環境教育フォーラム
<http://www.jeef.or.jp/about/kyozai.html>
- ・自然体験アクティビティ集 公益社団法人日本環境教育フォーラム
<http://www.jeef.or.jp/about/kyozai.html>
- ・川や海などの水辺でできる自然体験アクティビティ集 公益社団法人日本環境教育フォーラム
<http://www.jeef.or.jp/about/kyozai.html>
- ・どんな活動ができるか：プログラム作成の手引き 国立諫早青少年自然の家
http://isahaya.niye.go.jp/program/program_index.html
- ・自然体験ライブラリー (自然体験.COM)
<http://www.shizen-taiken.com/library.html>

自然体験活動の安全管理 【180分】90分×2コマ

「目標」

- (1) 自然体験活動における基本的な安全管理を理解する。
- (2) 応急処置を理解する。

「主な講習内容」

- (1) 自然体験活動における基本的な安全管理を理解する。
 - ・安全管理について基本的な理解をすること。
 - ・熱中症、落雷、危険動植物（蜂、蛇、うるし等）などについて知ること。
 - ・安全管理の意識と行動が常に求められること。
 - ・安全管理がすべての自然体験活動のプログラムの土台であること。
 - ・自然体験活動のプログラムにはそれぞれに危険が伴うこと。
- (2) 応急処置（ファーストエイド）を理解する。
 - ・応急処置（ファーストエイド）を体験すること。
 - 例) 傷病者の観察をすること。（意識、呼吸、顔色、怪我・骨折の有無等）
 - 出血法を理解すること。
 - 搬送法を理解すること。
 - 骨折に対する対応方法を理解すること。
 - 感染の予防法を理解すること。
 - CPRやAEDの基本を理解すること。
 - 等

「留意点」

- (1) 活動によって異なるが、実際のフィールドや参加者を想定し、具体的な安全対策がイメージできるようにする。
- (2) 応急処置（ファーストエイド）の実技を体験する。
 - なお、自然体験活動指導者（リーダー）の段階では応急処置の実技が多くなりすぎないようにし、安全管理の全容を理解する時間を確保すること。

「参考資料」

- ・自然体験指導者のための安全対策読本 安全で豊かな自然体験を提供するために 財団法人日本レクリエーション協会
- ・自然体験活動指導者 安全管理ハンドブック NPO 法人自然体験活動推進協議会
- ・安全管理と安全学習 星野敏男・金子和正監修 (杏林書院)
- ・安全なキャンプのためにPART 6～野山の活動の安全～ 社団法人日本キャンプ協会
- ・学研の大図鑑 危険・有害物 野口玉雄・小川賢一・篠永哲著 (学習研究社)
- ・海の危険生物ガイドブック 山本典暎著 (阪急コミュニケーションズ)
- ・野外毒本一被害実例から知る日本の危険生物 羽根田治著 (山と溪谷社)
- ・自然体験活動QQ レスキュー隊 日本アウトドアネットワーク <http://www.jon.gr.jp/qq/index.html>

ガイダンスと試験 【90分】 90分×1コマ

※この項目は主任講師（講習管理者）が行うこと。

「目標」

自然体験活動指導者認定制度の仕組みと自然体験活動指導者（リーダー）の役割を理解する。

- ①自然体験活動指導者認定制度の仕組みを理解する。
- ②自然体験活動指導者（リーダー）の役割を理解する。

「主な講習内容」

自然体験活動指導者認定制度の仕組みと自然体験活動指導者（リーダー）の役割を理解する。

- ①自然体験活動指導者認定制度の仕組みを理解する。
 - ・自然体験活動推進協議会の指導者制度、文部科学省委託事業自然体験活動指導者養成事業などこれまでの指導者養成の変遷があること。
 - ・全国体験活動指導者認定委員会、同自然体験活動部会、自然体験活動指導者養成カリキュラムの概要、資格内容などの資格認定制度のこと。
 - ・自然体験活動指導者養成講習会の中で使う用語のこと。
 - ・資格認定に伴う手続きのこと。
 - ・資格認定後の「演習Ⅰ」受講手続きのこと。
 - ・資格認定後の受講認定団体における自然体験活動指導者（リーダー）として活動できる情報に関すること。
- ②自然体験活動指導者（リーダー）の役割を理解する。
 - ・自然体験活動指導者（リーダー）の役割と内容のこと。
 - ・自然体験活動上級指導者（インストラクター）、自然体験活動総括指導者（コーディネーター）の主な役割に関すること。
- ③試験を実施する。
 - ・試験の方法・時間・合格点等の説明に関すること。
 - ・試験の実施。

「留意点」

- (1) 自然体験活動指導者認定制度の説明については、統一した説明資料を使って説明する。
- (2) 自然体験活動指導者養成講習会で使用する用語については、統一した説明資料を使って説明し、共通理解を図ってから講習を開始する。
- (3) ガイダンスについては60分とし、講習会の最初と最後に行うこととするが、講習会の組み方によっては、複数回に分けてガイダンスすることも可能とする。
- (4) 試験については、原則として、選択式穴埋め問題などの択一式問題と自由記述の論述問題を、バランスよく主任講師（講習管理者）が作成する。また、認定試験の時間は30分とし、合格は100点満点中60点に設定する。論述問題の採点基準については、あらかじめ設定しておく。配点は受講者に説明する。
- (5) 試験結果の告知方法及び合格・不合格の場合の手続き方法について説明する。

「参考資料」

- ・自然体験活動指導者認定制度の統一した説明資料
- ・自然体験活動指導者養成講習会で使用する用語の統一した説明資料
- ・認定手続き等に必要の様式集

